



名古屋部会(第12回)

日時:	2017年6月3日(土) 15:00 ~ 17:25
場所:	椋山女学園大学星が丘キャンパス(名古屋市千種区)
参加者:	中学校・高等学校・大学の先生方など12名が参加した。

【内容要旨】

第12回の名古屋部会を経済分野の授業の展開や教材の紹介、カリキュラムの検討を目的に開催した。最初に経済教育ネットワーク理事長の篠原総一氏(京都学園大学学長)よりご挨拶頂いた。

続いて、2つの授業実践の発表が行われた。渡辺力樹氏(愛知県立南陽高等学校)は「ジグソー法を利用したビジネス・経済教育」をテーマに発表した。ジグソー法は大テーマとその下での中テーマ・小テーマについてグループでの討論や調べ学習を行い、途中でメンバーを入れ替えて新たなグループを作ることで情報の共有と新たな討論、発表を行う学習方法である。今回の実践では大テーマを「高齢化社会のなかで、まちを活性化させる「しくみ」づくり」とし、その下で高齢化社会と街の活性化を考える中・小テーマを設定した。テーマについて調べていく過程や討論、発表を通じて生徒が主体的に取り組むことの意義や教員の指導のあり方について紹介された。

佐藤央隆氏(名古屋市立はとり中学校)は「先生のための夏休み経済教室 in 名古屋」での「エコノミストと授業を作る」の発表予定の内容である2016年11月26日の「江戸時代の経済政策を比べよう」の内容を振り返り、歴史の授業での経済分野の扱いについて検討した。授業では江戸時代の徳川吉宗・田沼意次、松平定信の経済政策を比較し、生徒は班に分かれてその特徴をまとめキャッチフレーズを考え理想のリーダーを選ぶことで立場の相違によって異なった政策が選択されることや合理的な意思決定について学習した。このような授業は歴史の理解だけでなく公民での経済の学習に通じるものであり、主権者としての能力の育成に資するものであることが示された。

引き続き、篠原総一氏(京都学園大学学長)より経済を教える上での教科書の問題点についてお話し頂いた。2017年1月21日の「教科書で教える「金融」」の内容を踏まえて、高等学校の教科書における①貨幣、②金融、③日本銀行、④金融制度改革の4つのトピックスについて、教科書に書かれている順番にとらわれず、関連した項目を整理して教えることで理解が深まることをご説明頂いた。また、「経済」を教える方法と共に、「経済」で教える内容について社会を理解するために役立つ内容という観点からの検討が必要であることが示された。

各氏のお話の後には活発な議論を行った。最後に、水野英雄(椋山女学園大学現代マネジメント学部准教授)より2017年8月21日(月)・22日(火)の経済教育ネットワーク・東京証券取引所主催の「先生のための夏休み経済教室 in 名古屋」、2017年8月17日(木)・18日(金)の日本証券業協会主催の「授業に役立つ金融経済セミナー in 名古屋」、椋山女学園大学主催のビジネスプランコンテストの案内と名古屋部会も益々活発に取り組んでいきたいと挨拶があった。

次回については10月7日(土)に椋山女学園大学にて開催することとした。 文責: 水野 英雄

次回開催予定: 2017年10月7日(土) 15:00 ~ 17:00、場所は椋山女学園大学星が丘キャンパス(名古屋市)。議題は、教材の紹介や経済教育の進め方に関するディスカッションほか。